

梅田康夫教授 略歴・業績目録

著者	金沢大学人間社会研究域法学系
著者別名	The Faculty of Law, Institution of Human and Social Sciences, University of Kanazawa
雑誌名	金沢法学 = Kanazawa law review
巻	55
号	2
ページ	5-13
発行年	2013-03-07
URL	http://hdl.handle.net/2297/34414

梅田康夫教授 略歴・業績目録

略 歴

- 一九四七（昭和二二）年一〇月
- 一九六六（昭和四一）年三月
- 一九六六（昭和四一）年四月
- 一九七〇（昭和四五）年三月
- 一九七〇（昭和四五）年四月
- 一九七三（昭和四八）年三月
- 一九七三（昭和四八）年四月
- 一九七四（昭和四九）年四月
- 一九七八（昭和五三）年三月
- 一九七八（昭和五三）年四月
- 一九八〇（昭和五五）年八月
- 一九八二（昭和五七）年四月
- 一九八四（昭和五九）年九月

石川県金沢市にて出生

石川県立泉丘高等学校卒業

東北大学法学部法律学科入学

東北大学法学部法律学科卒業

東北大学大学院法学研究科修士課程入学（基礎法学専攻）

同 右 修了（法学修士）

東北大学大学院法学研究科博士課程進学（基礎法学専攻）

三島学園女子大学非常勤講師（憲法担当、一九七五（昭和五〇）年三月まで）

〇（年三月まで）

東北大学大学院法学研究科博士課程修了（法学博士・東北大学

学法博第一七号）

宮城教育大学教育学部講師（社会科・法学担当）

宮城教育大学教育学部助教授（社会科・法学担当）

金沢大学法学部助教授（基礎法大講座・日本法制史担当）

文部省内地研究員（東北大学法学部、一九八五（昭和六〇）

年二月まで）

一九八八（昭和六三）年八月 金沢大学法学部教授（基礎法大講座・日本法制史担当）

一九九〇（平成二）年九月 高岡法科大学非常勤講師（法史学Ⅰ担当、二〇〇四（平成一

六）年九月まで）

一九九二（平成四）年十一月 大学院設置審査判定 金沢大学大学院社会環境科学研究科国

際社会環境学専攻（博士課程）教授（東アジア法制史論担

当）[㊦]

一九九八（平成一〇）年四月 山形大学人文学部非常勤講師（日本法制史担当、一九九九

（平成一一）年三月まで）

一九九九（平成一一）年九月 文部省短期在外研究員（ダブリン高等研究所他、二〇〇〇

（平成一二）年二月まで）

二〇〇三（平成一五）年四月 金沢大学評議員（二〇〇四（平成一六）年三月まで）

二〇〇六（平成一八）年八月 金沢大学法学部副学部長（二〇〇七（平成一九）年三月ま

で）

二〇〇八（平成二〇）年四月 金沢大学人間社会研究域法学系教授（法学類・日本法制史担

当）

学会及び社会における活動等

一九七三（昭和四八）年九月 法制史学会会員（現在に至る）

一九七三（昭和四八）年一〇月 日本民主主義科学者協会法律部会会員（現在に至る）

一九九六（平成八）年四月

松任市情報公開審査会委員（二〇〇五（平成一七）年五月より市制変更にともない白山市に名称変更、二〇〇八（平成

二〇）年三月まで）

一九九七（平成九）年四月

金沢弁護士会懲戒委員会外部委員（一九九八（平成一〇）年三月まで）

一九九八（平成一〇）年一〇月

法制史学会企画委員（二〇〇四（平成一六）年一〇月まで）

一九九九（平成一一）年四月

『法制史研究』編集者代表（二〇〇一（平成一三）年一〇月まで）

二〇〇〇（平成一二）年四月

暁烏敏賞選考委員会予備選考委員（現在に至る）

二〇〇三（平成一五）年八月

松任市個人情報保護審査会委員（二〇〇五（平成一七）年五月より市制変更にともない白山市に名称変更、二〇〇八（平成二〇）年三月まで）

二〇〇四（平成一六）年四月

金沢市弁護士会綱紀委員会外部予備委員（二〇〇六（平成一八）年三月まで）

二〇〇六（平成一八）年四月

金沢弁護士会綱紀委員会外部委員（二〇〇八（平成二〇）年三月まで）

二〇〇七（平成一九）年四月

白山石川医療施設組合個人情報保護審査会委員（二〇〇八（平成二〇）年四月より白山石川医療企業団に名称変更、二

〇一〇（平成二二）年三月まで）

二〇〇七（平成一九）年四月

白山石川医療施設組合情報公開審査会委員（二〇〇八（平成

二〇）年四月より白山石川医療企業団に名称変更、二〇一〇（平成二二）年三月まで）

二〇〇八（平成二〇）年七月

白山市自治基本条例制定市民会議会長（二〇〇九（平成二

一）年三月まで）

二〇一〇（平成二二）年十一月

法制史学会第六四回総会準備委員会代表（二〇一二（平成二

四）年八月まで）

著書論文等一覧

【著書】

雄山閣出版編『古代史研究の最前線』第一巻 政治・経済編〔上〕（分担執筆）

雄山閣出版 一九八六年

牧英正・藤原明久編『青林法学双書』日本法制史』（分担執筆）

青林書院 一九九三年

財団法人土地総合研究所編『日本の土地——その歴史と現状——』（分担執筆）

ぎょうせい 一九九六年

浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫編『日本法制史』（分担執筆）

青林書院 二〇一〇年

【論文】

律令制下における「訴訟」手続の変遷

法学四〇卷三号

一九七六年

律令制下の園宅地所有について

服藤弘司・小山貞夫編

『法と権力の史的考察——世良教授還暦記念 上——』（創文社）

律令時代の陸田と園地

宮城教育大学紀要一三卷

一九七七年

律令制的土地所有に関する一考察——いわゆる田主権の問題をめぐる——（二）

法学四二卷四号

一九七九年

同

（二・完）

日本古代の掘立柱建物

法学四三卷二号

一九七九年

別勅について——律令天皇制の一面——

宮城教育大学紀要一五卷

一九八〇年

大宝令における口分田収公規定

北陸歴史科学研会報一七号

一九八二年

大化・白雉期の班田と校田について（二）

金沢法学二六卷二号

一九八四年

同

（二・完）

金沢法学三〇卷二号

一九八八年

地下官人考

大竹秀男・服藤弘司編

『高柳真三先生頌寿記念』幕藩国家の法と支配』（有斐閣）

競田について

一九八四年

瀧川政次郎博士米寿記念会編

『瀧川政次郎博士米寿記念論集』律令制の諸問題』（汲古書院）

班田収授制の成立

法学四八巻六号

一九八四年
一九八五年

大宝二年（七〇二）西海道戸籍の受田額記載について

金沢法学二八巻二号

一九八六年

戸婚律盜耕種公私田条の復原について

金沢法学二九巻一・二合併号

一九八七年

平安期の進退・進止について

金沢法学三二巻一・二合併号

一九九〇年

平安期の法家問答について

金沢法学三三巻一・二合併号

一九九一年

日本古代における「魚酒」の提供

金沢法学三六巻一・二合併号

一九九四年

家畜貸与 (cattle-loan) と出挙米

金沢法学三八巻一・二合併号

一九九六年

On the Early Japanese Law and Society:

As compared with the Early Irish Law and Society

金沢法学四二巻二号

二〇〇〇年

院政前平安期における土地相論——裁定機関とその管轄について——

服藤弘司先生傘寿記念論文集刊行会編

『服藤弘司先生傘寿記念』日本法制史論纂——紛争処理と統治システム——』（創文社）

二〇〇〇年

明治前期における民事執行機関の形成について（一）

金沢法学四五巻二号

二〇〇三年

同

（二・完）

金沢法学四六巻二号

二〇〇四年

執達吏手数料制の成立について

金沢法学四七巻二号

二〇〇五年

（研究ノート）前近代日本の法曹——明法を中心に——

金沢法学四九巻二号

二〇〇七年

（研究ノート）平安後期の明法勘文について

金沢法学五〇巻二号

二〇〇八年

鎌倉期の奉行人について(一)

同 (二)

同 (三)

同 (四)

同 (五・完)

金沢藩の公事場与力について

金沢法学五一卷二号 二〇〇九年

金沢法学五二卷一号 二〇〇九年

金沢法学五二卷二号 二〇一〇年

金沢法学五三卷一号 二〇一〇年

金沢法学五四卷一号 二〇一一年

立命館法学三三三・三三三・三三三・三三三四合併号 二〇一一年

【書評その他】

D・C進学問題を論ずる

俯瞰七号 一九七五年

吉村武彦「律令國家と土地所有」

法制史研究二六号 一九七七年

瀧川政次郎「告訴人拘禁法の源流」

法制史研究二八号 一九七九年

關口裕子「日本古代家族の規定的血縁紐帯について」

法制史研究二九号 一九八〇年

河内祥輔氏の書評を讀みて

法制史研究三一号 一九八二年

齋川眞「流刑・左遷・左降——續日本紀の事例を中心に——」

法制史研究三二号 一九八三年

稲松尚子「律令裁判手續に關する一考察

法制史研究三三三号 一九八四年

——主としてその運用面より見たる——」

石井紫郎「古代國家の『刑事』裁判素描

法制史研究三九号 一九九〇年

——日本裁判制度の通史的把握のために——」

笠原英彦「律令裁判制度の一考察」

法制史研究三九号 一九九〇年

利光三津夫「職制律監臨官強取猪鹿條について」

法制史研究四〇号

一九九一年

山本七平『日本人の土地神話』

アクトス三卷二号

一九九一年

水本浩典氏の書評を讀みて

法制史研究四〇号

一九九一年

長谷山彰『律令外古代法の研究』

法制史研究四一号

一九九二年

吉田徳夫氏の批判に答えて

法制史研究四二号

一九九三年

長谷山彰「身分制の側面からみた日本律の成立過程

法制史研究四四号

一九九五年

——庚午・庚寅戸籍における良賤區分をめぐって——

法制史研究四四号

一九九五年

良賤訴訟と庚寅年籍

新日本古典文学大系月報六〇号

一九九五年

吉川眞司著「勅符論」・森田悌著「大寶令勅符について」

法制史研究四五号

一九九六年

小口雅史氏の御教示に接して

法制史研究四六号

一九九七年

利光三津夫・長谷山彰著『新・裁判の歴史』

法制史研究四八号

一九九九年

森田悌「古代の悔還」

法制史研究四九号

二〇〇〇年

長又高夫著『日本中世法書の研究』

古文書研究五四号

二〇〇一年

『歴史学事典』九法秩序（弘文堂）の「惟宗允亮」、「惟宗直本」、「坂上明兼」、

「讃岐永直」、「法家」、「山田白金」、「大和長岡」、「禁獄」、「事発」、「刑部省」、

「裁判制度1（日本古代の）」、「解部」、「明法博士」の各項目

二〇〇二年

佐藤泰弘著『日本中世の黎明』

法制史研究五二号

二〇〇三年

渡辺尚志・五味文彦編『土地所有史』（新体系日本史3）

法制史研究五三号

二〇〇四年

国学院大学日本文化研究所編『律令法とその周辺』

日本歴史六八三号

二〇〇五年

小林宏『日本における立法と法解釈の史的研究 第1巻 古代・中世』

法史学研究会会報一四号 二〇一〇年

長又高夫著「法書『明法条々勘録』の法的性格」

法制史研究六〇号 二〇一一年

大井喜代著「日本古代の断罪手続きと本司の役割」

法制史研究六一号 二〇一二年

【学会報告等】

律令制下における「訴訟」概念の変遷

法制史学会第二三回研究大会 一九七五年

平安期の『法家問答』について

法制史学会第三八回研究大会 一九九〇年

平安初期の土地『相論』について

法制史学会中部部会第二三回例会 一九九七年

院政前平安期における土地相論——裁定機関とその管轄について——

法制史学会第四六回研究大会 一九九八年

「和与」と「悔還」の法理について——長又高夫氏の最近の研究を中心に——

法制史学会近畿部会第三五一回例会 二〇〇〇年

前近代日本の法曹——明法を中心に——

法制史学会第五八回総会 二〇〇六年